



日本企業の組織運用に寄り添う統合認証基盤。 アクシオとソリトンが提示する IDガバナンスの最適解

目次

- 多要素認証ニーズの急増と一気通貫の統合認証基盤
- 日本企業の組織運用に寄り添う純国産ソリューション
- 実践的な課題解決と連携が生み出すセキュアな運用環境
- 次世代セキュリティの標準化に向けたパートナーシップの展望

企業を取り巻くサイバー脅威が日々高度化し、クラウドサービスの利活用やハイブリッドワークが定着した現代において、従来の境界防御型セキュリティは大きな転換期を迎えています。どこからでもあらゆるシステムにアクセスできる利便性の裏側で、情報資産を守るための認証とID管理の重要性がかつてなく高まっています。とりわけ、近年注目を集めているSCS評価制度（サプライチェーン強化に向けたセキュリティ対策評価制度）では、単なるシステムの導入にとどまらず、アカウントのライフサイクル管理やアクセス権限の適正化に加え、重要な情報を扱うクラウドサービスへのアクセスで多要素認証(MFA)を用いることなど、認証・アクセス管理の強化が求められています。

こうした市場の変化と顧客の課題解決に応えるため、統合認証基盤の構築において長年の実績と高度な技術力を持つ[株式会社アクシオ](#)は、株式会社ソリトンシステムズが提供するクラウド認証サービス「Soliton OneGate」

の取り扱いを開始しました。アクシオが展開するクラウドID管理サービス「[Keyspider](#)」とSoliton OneGateを組み合わせることで、日本企業特有の複雑な組織運用に寄り添った、純国産のセキュリティソリューションを提案できます。両社が推進する協業の背景と、国内企業にもたらす価値について紐解いていきます。

多要素認証ニーズの急増と一気通貫の統合認証基盤

近年、ランサムウェアをはじめとするサイバー攻撃による被害が相次ぐ中、各種のセキュリティガイドラインにおいて多要素認証(MFA)の導入が強く推奨されるようになりました。Microsoft 365などのSaaS業務システム、Active Directory(AD)を中心としたオンプレミス環境、リモート

ワークを支えるVPNなど、多岐にわたるシステムが混在するIT環境において、認証方式や権限管理の運用がシステムごとに個別化してしまうケースは少なくありません。

こうした状況下では、多要素認証を導入していても「正規に管理された端末からのアクセスであるか」「退職者や委託先のアカウントが速やかに無効化されているか」「異動や兼務に伴い、不要な権限が残っていないか」といった統制状況を社内外へ継続的に証明することが困難になります。株式会社アクシオの第3営業部で統合認証基盤の提案を担当する荒川 恵里佳氏は、市場の急激な変化と現場の抱えるリアルな課題感について次のように解説します。



株式会社アクシオ
第3営業部

荒川 恵里佳氏

に高まっています。弊社内で統合認証基盤を扱う部門においても、お客様からの多要素認証に対するニーズが非常に高まっていました。そうした中、デジタル証明書を利用した多要素認証において長年の実績を持つソリトンのSoliton OneGateを取り扱い製品に加えたことで、ID管理のKeyspiderと合わせて、お客様の実際の運用により深く寄り添った最適なお提案が可能になりました。

企業のIT環境では、エンドポイントにおけるユーザー認証やシングルサインオン(SSO)と、その上流に位置するID管理やプロビジョニングが、それぞれ独立して運用されているケースが多く見られます。システムごとにアカウント登録や権限設定が分散していると、管理者の運用負荷が増大するだけでなく、退職者IDの削除漏れや、異動時に旧部署の権限が残ってしまうケースなど、セキュリティ上の大きな抜け穴となりかねません。

荒川氏は、この課題を解決するためにはエッジから最上流までを一気通貫でカバーする仕組みが不可欠であると指摘します。

荒川氏:端末のエッジ側でのユーザー認証から、各アプリケーションへのシングルサインオン、さらにその上流にあるID管理やプロビジョニングに至るまで、一気通貫でご提供できる体制を構築できたことが今回の協業の大きな背景です。最上流のID管理から末端のアプリケーションアクセスまで、全体をシームレスにカバーできるパートナーは市場でも限られており、両製品の連携によって非常に高いポテンシャルを発揮できると考えています。

OneGateとKeyspider によるIDセキュリティ強化のご提案

クラウド型の統合認証基盤としてOneGateとKeyspiderを組み合わせることでIDセキュリティを強化し、業務効率と統制の両立を実現します。



Soliton
OneGate

- シングルサインオンでOneGateにログインするだけ
- 多要素認証で「なりすまし」ログインを防ぐ

API連携



Keyspider

- 退職のタイミングでアカウントを自動で無効化
- 誰にどのシステムが利用許可されているか一元管理

オンプレクラウドも一元管理できる 国産SaaS

Copyright 2026 AXIO Corporation

【図1】

Copyright(C) Soliton Systems K.K. All rights reserved.

単一の機能を提供するだけではなく、企業の認証基盤全体を最適化する。最上流のIDガバナンスからエッジ認証までを一貫してサポートする視点こそが、複雑化するIT環境をセキュアに維持するための鍵となります。

日本企業の組織運用に寄り添う純国産ソリューション

ID管理と認証の統合が求められる中、海外製のIDaaS(Identity as a Service)製品も市場に多数流通しています。しかし、国内企業がそれらを導入・運用する際には、機能の過不足やコスト、既存の組織運用との相性が課題になる場合があります。

海外製品の中には、職務や役割を軸とした権限管理を前提に設計されたものもあります。その場合、日本企業で頻繁に発生する組織改編や人事異動、兼務などへの対応に、運用上の工夫が必要になることがあります。日本では、定期的な大規模組織改編、頻繁な人事異動、複数部署の兼務、さらにはプロジェクトベースでの横断的なアサインが発生します。その都度、手作業でIDやアクセス権限を変更しては、管理現場の負荷が大きくなります。

日本特有の雇用慣行や組織構造に即したID管理の重要性について、アクシオの荒川氏は次のように強調します。

荒川氏:海外製品には、ジョブ型雇用を前提としているため、組織改編や人事異動を柔軟に管理する機能が充実していないものもあります。しかし日本企業では、頻繁な人事異動や部署の兼務が発生し、その都度IDやアクセス権限を正確に管理しなければなりません。Keyspiderは、日々のID追加・変更・削除といったお客様の運用に直結する部分に柔軟に対応し、日本特有の組織体制に寄り添うことができます。そこに、多様なシステムとシングルサインオン可能かつ多要素認証を備えたSoliton

OneGateを組み合わせることで、過度なカスタマイズを抑えつつ、国内企業の運用に合わせた構成をご提案できます。

このアクシオ側のアプローチを受け、メーカー視点から見た市場のニーズと組み合わせの価値について、株式会社ソリトンシステムズのプロダクト推進部でSoliton OneGateの販促を担当する南 優羽氏は次のように語ります。



南氏:実際にお客様から認証に関するご相談をいただく際、ほぼ同時にID管理の課題も抱えていらっしゃると思います。認証と

ID管理の両方をカバーできる海外製品も存在しますが、高額でオーバースペックになりがちです。それに対し、純国産である両社の2製品を組み合わせることで、分かりやすく必要十分な機能をリーズナブルにご提案できるようになりました。日本企業のお客様にとって、非常にメリットの大きいご提案が可能になったと感じています。

機能の豊富さだけを追求するのではなく、実際の現場で負担なく使い続けられる仕組みであること。日本の商習慣や組織風土を踏まえて開発された国産製品の組み合わせは、システム管理者の運用負荷の軽減につながります。

実践的な課題解決と連携が生み出すセキュアな運用環境

アクシオとソリトンは、SCS評価制度を見据えた認証・ID統制の進め方を

テーマに共同ウェビナーを開催しました。取引先や委託先を含めたサプライチェーン全体でのセキュリティ確保が求められる中、ウェビナーには、2026年度末頃に予定されている制度開始(申請受付の開始)を見据えた情報システム担当者が参加し、高い関心が寄せられました。

ウェビナー当日の状況とお客様から寄せられた反響について、アクシオの荒川氏は手応えを語ります。

荒川氏:ウェビナーの参加率もアンケートの回答率も非常に高く、SCS評価制度に対するお客様の情報収集の熱量を深く実感しました。当日の質疑応答では、お客様の組織規模に応じた具体的な対応方法についての質問も寄せられ、一方的な情報発信にとどまらない、活発で双方向なコミュニケーションができたことが大きな成果でした。

続いてソリトンの南氏も、参加者が抱えるリアルな課題感と製品への関心の高さについて触れます。

南氏:SCS評価制度という最新のトレンドへの関心の高さもあり、非常に多くの反響がありました。制度そのもののへの疑問だけでなく、Soliton OneGateのRADIUS機能を利用して既存VPNの認証を多要素認証へ移行できるかといった、実用的で具体的なご質問が多数寄せられました。制度の解説にとどまらず、製品自体の強みや具体的な運用イメージが、お客様の抱える課題に合致したと感じています。

ID管理製品と認証製品が独立して稼働している環境では、システム間でのアカウント同期や手動設定の手間が発生しがちです。ユーザーごとに個別のシングルサインオン設定やグループ割り当てを行う運用では、ヒューマンエラーが発生しやすく、管理者の負担も大きくなります。

KeyspiderとSoliton OneGateが連携することで、こうした運用課題の軽減につながります。荒川氏は、連携によって実現する自動化のメリットを次のように説明します。

荒川氏:ID管理領域と認証領域が連携していない場合、個別のシングルサインオン設定やユーザー・グループ管理を手作業で行う必要があり、ヒューマンエラーや大きな運用負荷が発生してしまいます。KeyspiderとSoliton OneGateが連携することで、グループ管理やIDの設定変更が自動化されます。組織変更時にも、正しい権限を各システムへスムーズに反映しやすい環境を構築できます。

さらに、南氏はアクセス制御とIDガバナンスの相互補完関係について、セキュリティの観点からその重要性を訴えます。

南氏:ID管理で正しいIDと権限を整備したうえで、アクセス時の多要素認証を組み合わせることで、ID管理という資産の価値をより引き出せます。信頼できる端末と正規のユーザーにアクセスを限定する認証と統合ID管理を連携させることで、企業の重要な情報資産をより高度に保護するアクセス統制につなげることができます。

正しい人が、正しい権限で、許可された端末からアクセスできる状態を継続的に維持する。こうした運用は、ゼロトラストの考え方を実践するうえで重要です。

次世代セキュリティの標準化に向けたパートナーシップの展望

アクシオとソリトンの協業は、単なる製品の組み合わせ提案を超え、国内企業における次世代セキュリティの標準モデルの確立を目指す取り組みへと発展しています。特に、大企業のみならずサプライチェーンを構成する関連会社や中堅・中小企業においても、IDガバナンスは重要な課題となっています。

今後のパートナーシップの展望と読者へのメッセージについて、アクシオの

荒川氏は力強く語ります。

荒川氏:SCS評価制度の具体化に伴い、より実践的な内容のセミナーを継続してお届けしていきます。また、サプライチェーンや関連会社のID管理といった複雑な要件に対応するKeyspider Plusを用いたアプローチや、自治体・大手SIer様への共同提案も強力に推進してまいります。読者の皆様には、サプライチェーン全体でセキュリティ対策の強化が求められる中で、自社のID管理体制を今一度振り返っていただき、少しでも課題を感じられた際にはぜひお気軽にご相談いただきたいです。

最後に、ソリトンの南氏は次世代のセキュリティを見据えた両社の使命について締めくくりました。

南氏:サプライチェーン攻撃への対策強化や、デジタル証明書やFIDO2を用いたフィッシング耐性の高い多要素認証の実装など、次世代のセキュリティ対策のあり方を両社で啓発し、市場へ発信していきます。制度対応を見据えつつ、運用負担の軽減とユーザーの利便性向上を両立し、日本企業の運用に寄り添うソリューションとして継続的に発展させていきますので、ぜひご期待ください。

複雑化するサイバー脅威と、多様化する働き方。その両方に対応するためには、強固なセキュリティと現場の運用に即した柔軟性が不可欠です。アクシオとソリトンが提案する国産の統合認証基盤は、これからの企業にとって有力な選択肢の一つとなります。

株式会社アクシオ 本社 〒141-0031 東京都品川区西五反田 2-12-19 五反田 NN ビル 5F https://www.axio.co.jp/	ネットアテスト 「ネットアテスト」は、企業ネットワークに関わる全ての方のためのサイトです。安心・安全な環境を実現したい情報システム担当者様、確かなシステムを提案されたいインテグレータ様に向けて、運用の効率化やセキュリティ強化の方法などをお届けしていきます。 サイトはこちら 
---	--